

昨年がいまごろも、今年も、幼稚園の応募児が定員に充たないというはなしを身近にいくつもきかされている。それも並たいていの減少ではなく、例年は五十人も応募者があったのに、今年は十人にもみたないという場合である。私立だけのことではない。公立も、それから、東京だけではなく、地方でも、事情は同様である。このことは幼稚園関係者には周知のことであるけれども、それでも、個々の幼稚園で自分の園で幼児数が激減すると、保育の方法がわるいのではない

か、応募の努力が足りないのではないかというような批判や反省となつて、現場の保育を担当する人はつらい思いをする。また従来の比率でゆけば教師数が余ることに伴う不安がある。

幼稚園児の減少の大きな理由は、出生児の減少である。それは同胞数の減少だけでなく、結婚年齢の上昇に伴い、子どもを生む夫婦数が減少していることにも

よるといふ。この傾向はまだ当分はつづくようである。

このことは個々の幼稚園にとつては、園の存立にかかわる重大な問題である。それに対しては、できるだけの検討をし努力を払うことは必要であらう。しかしその根本の理由が、個々の幼稚園の事情をこえた大きな問題にあることも間違いない。そうとすれば、幼稚園に対する見方を根本的にかえてゆくことが必要となつてきているのではないか。

眼をひろげて見れば、このことは単に幼稚園だけの問題ではない。幼児が減少しているということは、日本全体の問題である。若い生命力が減少しつつあるという問題である。単に将来の国力、生産力にかかわることだけではない。現在、すでに私共の周囲に、幼い柔軟な創造的エネルギーが失われつつあるという問題がある。おとなが幼児に負うていることが大きいことに気付かされる。(T)

幼児の教育 第八十一巻 第四号

四月号 © 定価二七〇円

昭和五十七年三月二十五日 印刷
昭和五十七年四月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いたします